

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第195003132号		
法人名	社会福祉法人 北見有愛会		
事業所名	グループホーム ライラックス		
所在地	北見市川沿町145番地80		
自己評価作成日	令和6年2月20日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0195003132-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和6年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念である「あい・共に」を元に、入居者の方々と共に楽しく笑顔の絶えない環境作りを力を入れています。入居されている方の生活歴や身体状況に合わせて、活動的な毎日を過ごされるよう、家事の一部を担っていただいたり、余暇活動の支援を行っています。余暇活動支援では、かるた取りやトランプなどのゲーム、体操を行ったり、天気の良い日には散歩の支援も行っています。また、毎日を元気に過ごされるよう、看護職員と共に健康管理を行い、かかりつけ医への受診時には職員が同行し、ご本人が状態をお伝え出来ない方でも、職員が日々の様子や体調の変化など報告や相談を行い、医師との連携を図りながら体調の管理を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成19年NPO法人により開設されたグループホームライラックスは当時の管理者、職員で話し合い事業所理念を利用者の発した言葉「あい・共に」と定め、共に楽しく生活できる様に、利用者中心に支援できる様にと日常的に理念に沿った実践に取り組んでいます。本年1月に管理者の交替がありましたが、前管理者のモットー「すべて小綺麗に、清潔に、笑顔で暮らせる喜びをともに」を受け継ぎ事業所内は現在も清潔に保たれ過ごしやすい空間を提供しています。現在は社会福祉法人北見有愛会により運営され、昨年までは2ユニットでしたが、現在は1階のみの使用で7名定員での1ユニットとなっています。家族からは、医療機関受診や買い物、洗濯等すべてグループホームで対応して頂き、高齢化された家族から感謝が寄せられています。新型コロナウイルス感染症が蔓延する以前は、近隣の保育所、幼稚園、小学校の運動会や催しに出かけている他、町内会の花壇整備、その後の焼肉会に参加して交流を行っていましたが、現在は家族、知人、友人の面会は感染対策を施しながら少しずつ再開しています。外出が少なくなっていたこれまでは職員がゲームを工夫したり、考案して楽しい時間を過ごせる様に取り組んでいます。利用者の情報を共有して希望する生活が出来るよう、重度化した場合にも対応できるように内部研修を充実させ支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念「あい・共に」を掲げ、利用者様のみならず、ご家族や地域の方々と共に笑顔や喜びの絶えない施設作りに励んでいる。	利用者の言葉をもとに作成した事業所理念を玄関、リビングの目につく場所に掲示し常に意識のもとに置き実践するように努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	感染症予防の為、町内会の行事や法人運営のお祭りの開催はなく、地域の方々との交流を図る機会は減っているが、天気の良い日には施設の周りを散歩され、近隣小学校の学生さんや町内の方々との挨拶や会話をされる等、交流をされた。	町内会に加入していますが、新型コロナウイルスの影響で活動は行われいません。付近には保育所、幼稚園、小学校と子供たちの多い地区であり今までは運動会等の見物にも出かけ交流を行っていましたが、現在は散歩時の挨拶程度の交流となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から、ご家族や知人の方に認知症の疑いのある方の困り事やご相談、利用可能である介護サービスの種類や施設への入居相談等をお受けし、お答えをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止に伴い、書面での報告や連絡を行っている。	新型コロナウイルスの影響で書面開催であり、資料は各委員や家族には送付されていません。今年度2月、3月の会議は対面で行われ、意見を得てサービス向上に活かしています。	開催案内や議事録の関係機関への報告を含め、感染対策を取っての定期的な会議開催を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の運営についてや、入居者様の介護保険利用状況や入居相談、区分変更・更新申請、新型コロナウイルス関連について等、報告や相談を行い、連携を図っている。	介護保険法や配置基準については法人の事務局で市に問い合わせを行い事業所に指導しています。管理者は事故報告や利用状況の報告をメールで行っており、電話での問い合わせや訪問での確認と連絡を行い関係構築を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の設置に加え、具体的な事例や不適切ケア等について書面を作成し、内部研修を実施。職員が日頃何気なく行っている支援方法についてを見直す機会を設け、予防に努めている。	身体拘束廃止に向けては管理者を委員長に職員全員で委員会を構成し3か月毎にグループホームでの不適切な行為が無いかを検証しています。その他内部研修に取り組み禁止行為が行われない支援を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会に加え内部研修を開催し、虐待についての理解を深め、日々何気なく行っている支援内容や声掛けの仕方等について意見交換を行ない、防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者がおり、社会福祉協議会の方や法律事務所の方々と連携を図ったりと、関わりを持つ事で理解し学ぶ機会を得、活用出来ように努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書や重要事項説明書をもとに、分かりやすい言葉での説明を心掛けている。介護報酬や加算の改定があった際には、書面の郵送のみではなく電話連絡にて説明を行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会された際には、状況や体調、通院予定や結果等も報告を行い、意見や要望を聞き取るように努めている。面会が難しいご家族や急を要する際には、電話連絡により連携を図っている。	利用者、家族の意見や要望は日常会話の中や面会時に伺うようにしていますが、コロナ禍の時には電話での報告や連絡の時に把握する様努めています。再開された運営推進会議へ出席いただきその中での意見を拝聴しています。概ね3か月毎に個人版のライラックス通信で様子を知らせています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は事業所内での会議を毎月開催し、運営に関する要望や意見を聞き取る機会を設け要約し、法人会議にて報告を行い、反映させている。	職員からの意見や提案は業務の中や毎月の会議で把握するように努めています。職員会議・ケース会議の前に法人の管理者会議が行われ運営や業務関係の決定事項を報告しスムーズな運営が行われています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各々の家庭の事情による勤務時間の調整や出勤日数、出勤する曜日等の調整、希望休や有休休暇取得等、働きやすい職場環境作りに努めると共に、個々の努力や実績を評価し、給与に反映が出来るように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症の予防により、法人内外の研修を受ける機会は減少している。今後は研修を受ける機会を確保し、職員全体の知識や技能の向上を図っていききたい。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人運営の会議を毎月開催し、グループホームだけではなく、通所、高齢者住宅、居宅支援事業所等、他の介護サービス事業所と交流する機会を得られ、情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはご自宅へ訪問し、生活状況を把握しながらご本人のご様子をお伺いし、安心していただけるような声掛けや対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入居に至った経緯や思い、ご家族が不安に思われている事、ご要望等をお伺いし、些細な事でもご相談を行っていただけるような体制作りを心掛け、より良い関係作りの構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のアセスメント結果にて、ご家族やご本人が必要とされる課題を把握し、福祉用具の活用や専門医への受診、訪問看護サービス利用等、医療面での支援方法等も提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や手芸、創作活動等、その方が得意とされていた事を担っていただいたり、人生の先輩としてご相談やお話をお伺いする等、「共に支え合い暮らす」という関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを大切に、面会時や電話連絡にてご希望やご意見をお伺いし、柔軟に対応が行えるように努めている。ご家族が遠方で中々来られない方等は、施設職員が記念撮影を行う等、支援も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ウイルス性感染症予防の為、短時間での面会とさせていただいたり、電話の使用が可能な方は、施設内の電話を利用を行っていただいた。また、お手紙等の作成や郵送のお手伝いも行っている。	コロナ禍で家族、知人、友人の面会は制限していますが、今年度は先に電話連絡をもらい短時間での面会がなされています。整髪は職員がボランティアで行い、希望の買い物は事業所で支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調やご希望に合わせて共有スペースで一緒に過ごしていただき、職員が間に入りながら他者と交流が深められる様、レクリエーション活動や軽作業等のお手伝いを提供している。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	専門職として契約終了後もご気軽に相談をしていただけるようにとお話をしたり、入居のご相談等をお受けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議開催にてご希望やご意向に添ったケアマネジメント作りに努め、ご希望を訴えられる事が難しい方は、日々のご様子や支援時の反応、お言葉等からご意向を汲み取るよう心掛けている。	日常の会話や契約時の生活歴、見直し時のアセスメントと機会ある毎に意向の把握に努め職員会議で共有し実現出来る様に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からの情報提供に加え、医療機関や介護サービス事業所等からの情報提供を元に状態を把握し、日々の生活に取り入れられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩き方や話し方、今日出来た事や出来なかった事、表情や顔色の変化、バイタル値や食事摂取量、排泄状況等、一日の過ごし方や心身状態については介護日誌や温度版への記入と共に、引継ぎ時の申し送りにて把握をするよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議開催にてADL状況を確認し、ご本人やご家族の意向に添った支援が行われているか、各医療機関受診結果等や日々のご様子も踏まえて討論し、課題分析を行っている。	介護計画は基本的に3か月毎にモニタリングを行いサービス担当者会議で方針を決め見直しを行っています。法人で介護記録、排泄、ADL等の電算化を予定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やケア内容・結果に加え、ご本人が話された事やお言葉等をそのまま介護日誌へ記入する事で、職員間で情報を共有し、介護計画に反映させられるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お食事を食べられた事を忘れられたり、食事の時間外に「お腹が空いて」等とお食事を希望される方がおられ、おにぎり等のご夜食をご用意したり、おやつや飲み物の提供を行う等、柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設へ入居される前に通われていた通所サービスを楽しみにされている方がおられ、入居後も利用を継続していただき、通所職員や馴染みの利用者様との交流が続けられるよう支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ継続して受診が出来るように支援を行っている。また、他科への受診が必要となられた際には、ご本人やご家族、かかりつけ医相談の元決定し、支援や同行を行っている。	グループホーム利用以前からの医師を継続してかかりつけ医とし、受診は事業所で支援しています。終末期の訪問診療が必要になった時は協力医にお願いしています。法人の看護師により毎週1回の訪問があり健康管理を行っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による看護職員が週に1回施設へ訪問し、日々の様子や体調の変化、医療機関受診結果等の報告し連携を図っている。また、訪問日外でも体調不良時には電話連絡にて状況を報告し指示を仰いだり、直接状態を確認していただく等、支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には施設作成のフェイスシートやアセスメントシートを活用し情報提供を行っている。また、電話連絡での状況確認や、入退院時・入院中に必要な物品の用意や洗濯物の回収等、ご本人が安心して治療が受けられるよう、支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には終末期や看取りケアについての説明も行い、ご家族やご本人のご意向を確認。入居後は心身の変化に合わせて再度ご意向を確認しつつ、かかりつけ医への報告も行う等、連携を図っている。	利用契約時に、重度化した場合における(看取り)指針で説明し理解を得ています。看取り期になった時には医師からの説明があり、医師、家族、事業所が連携して取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを元に、内部研修を実施。内部研修では、実際に起きてしまった事例についての対応方法や、起こりうるであろう危険や事故を想定し、皆で話し合いを行い、緊急時には落ち着いて行動し最善である対応が行えるよう心掛けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、主に職員の人数が少ない夜間を想定し訓練を実施している。新しく住まれた近隣住民の方との交流が図れておらず、協力体制は整われていない状態であると考えられ、整備が必要とされる。	火災の避難訓練は夜間想定で年2回行っています。今年度は自主訓練での総合訓練を行っています。業務継続化計画は策定しており近日中に研修を行う予定となっています。	消防署の指導、地域の協力を得た訓練の実施と浸水想定地区であり避難指示や指示者の徹底、また、停電等その他の災害への備えを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止や不適切ケアについての内部研修を実施し、職員間で日々の対応の仕方や普段何気なく行っている声掛けの仕方等を振り返り、話し合いを行なう等、尊厳やプライバシーの保護に努めている。	トイレへの声掛けや入浴時に、誇りを傷つけない対応を心掛けています。毎年虐待防止研修時に接遇についても取り上げ声掛けの仕方や介助の仕方について話し合いを行い適切な対応が出来る様にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のご様子や表情に合わせてさりげなく声掛けを行い、思いやご希望をお伺いしている。困っているけどどうして良いか分からないと話される方もおり、その際には複数の選択肢をご用意し、共に決定が出来るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様各々のご要望や体調に合わせて柔軟な対応を心掛けているが、職員側の決まりや業務化してしまっている時があり、心や気持ちに余裕を持って行える対応が必要とされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や入浴の際には、可能な限りご本人と相談を行いながら用意を行うように心掛けている。また、職員による散髪や、髭剃りの支援等も行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやお茶碗洗いなど、進んで声を掛けて下さる方がおり、お手伝いをされた際には、他者と共に協力して行われたり、談話をされながら行われるなど、楽しみにされている様子が伺えている。	法人系列の配食センターから副食が届けられ事業所で主食・汁物を用意し、利用者の状態に合わせた食形態で調理しています。職員はおやつ作りや誕生日・行事食で季節を感じたり、手作りで食事が楽しみになるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病により食事や水分に制限がある方は、医師や栄養士と相談を行いながら、提供を行っている。また、一人一人の嚥下状態やご希望に合わせて食べ易く調理し、提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや洗面所へと誘導を行い、支援を行っている。歯磨きやうがい難しい方は、口腔ケアティッシュを使用し、誤嚥を防止しながら口腔内の衛生が保てるよう、支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレを使用される事を忘れられていたり、遠い方は居間や居室へ行き来される際に、さりげなく声掛けを行い、誘導している。お一人で使用する事が難しい方は、声掛けや排泄パターンを元に誘導を行っている。	一人ひとりの記録を作成し、間隔や習慣、パターンを把握してトイレへの誘導を行っています。使用する衛生用品等は日中、夜間を考慮しながらその人にあったサイズ着用を心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時には水分を多めに摂取していただいたり、おやつにヨーグルトを提供する等、支援を行っている。また、病院受診時には医師へ相談し、整腸剤や下剤等の処方がある方は提供を行い、排泄状況に合わせて調整も行っている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおまかな曜日や時間は決まってはいるが、入居者様の体調やご気分、ご希望等に合わせ中止し、翌日に再度声掛けを行う等、支援を行っている。	入浴は週2回を基本に状況、状態を考慮して行っています。困難な方は無理することなく時間や曜日を変え再度声掛けを行い支援に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくりと休んでいただけるよう、日中はゲームや軽作業のお手伝い、体操等、個々の生活習慣や体調に合わせて無理なく身体を動かしていただけるよう、支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診の結果やお薬変更の際には、個別介護日誌や申し送りノートへ記入し、職員全員が把握出来るようにしている。お薬変更後のみならず、身体状況に変化がみられた際には、看護職員や医師へ報告を行う等し、対応を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や日常の会話を参考にしながら、ご本人の負担やストレスにならないように、さり気なくお手伝いやゲーム、散歩等のお誘いを行っている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症予防の為、極力外出は控えさせていただき、主に医療機関への受診のみとなっているが、天気の良い日には近隣を散歩をされ、時には少し遠くの公園まで足を伸ばされたりと、気分転換が図れるよう、支援を行っている。	新型コロナウイルスの影響で外出は限られていますが、ストレス解消や気分転換で天気の良い時には付近を散歩したり、外気浴を楽しんでいます。付近には幼稚園、保育所、小学校があり登下校時には挨拶を交わしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族の希望に合わせ、ご自身で保管されている入居者もおられるが、少額でとお願いをしている。感染症予防の為、買い物は職員が代行を行っているが、病院受診時に院内での買い物を楽しまれる方もおり、その際には購入に関するお手伝いを行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に合わせて施設内の電話を利用いただいている。ご家族が遠方でお手紙を送りたいと話される入居者の方は、封筒へのあて名書きや郵送のお手伝いも行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居間の明るさや温度調節を随時行い、入居者様のお部屋に至っても訪室時に確認を行っている。施設外の畑にはお花を植え、散歩の際にご覧になられたり、居間や玄関に季節のお花をお飾りしたりとし、お部屋にご仏壇がある方は、お花をご用意しお飾りする事もあった。	廊下には行事や日常の写真がボードに貼られており、居間には季節の飾りつけがなされています。明るさ、温湿度の調節がされ居心地よく日常生活が出来る様に配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お食事や水分提供の際には居間での提供が主であるが、個々の体調やご気分、ご希望に合わせてお部屋へお届けをしたり、入居者様同士がお部屋でお話をされている際には、さり気なく訪室しお飲み物をご用意する等。行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、今まで使われていた馴染みの物や好みの物を持ち込まれるようお話をを行い、家具やベッド等の大きな物の配置は、ご家族やご本人と確認を取りながら、設置している。	元は下宿であったためキッチン、ユニットバスが付いていますが収納場所として使用しています。クローゼット、ベットが配置され、自宅から箆笥等の家具を持参して過ごしやすく工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態や変化に合わせて、お部屋の家具や洗面所の小物の配置を変えてみたりと、随時環境の整備を行っている。		